



# Cisco ASR 9000 シリーズ ルータの RIP デバッグ コマンド

---

ここでは、Cisco ASR 9000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータで Routing Information Protocol (RIP) のデバッグに使用するコマンドについて説明します。

# debug rip

Routing Information Protocol (RIP) のデバッグ情報を表示するには、EXEC モードで **debug rip** コマンドを使用します。デバッグ出力をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug rip {auth | database | events | global | im | oom | policy | receive | rib | send | show}
[interface type instance] [vrf {all | vrf-name}]
```

```
no debug rip {auth | database | events | global | im | oom | policy | receive | rib | send |
show} [interface type instance] [vrf {all | vrf-name}]
```

## シンタックスの説明

<b>auth</b>	RIP 認証情報を表示します。
<b>database</b>	RIP データベース イベントを表示します。
<b>events</b>	RIP プロトコル イベントを表示します。
<b>global</b>	RIP プロセス レベル情報を表示します。
<b>im</b>	RIP VPN routing and forwarding (VRF; VPN ルーティング/転送) とインターフェイス イベントを表示します。
<b>oom</b>	RIP メモリ不足情報を表示します。
<b>policy</b>	RIP ポリシー実行情報を表示します。
<b>receive</b>	RIP パケット受信情報を表示します。
<b>rib</b>	RIP と Routing Information Base (RIB) の対話を表示します。
<b>send</b>	RIP パケット送信情報を表示します。
<b>show</b>	<b>show</b> コマンド処理情報を表示します。
<b>interface</b>	(任意) フィルタリングするインターフェイスを指定します。
<i>type</i>	インターフェイス タイプ。詳細については、オンライン ヘルプ の機能である疑問符 (?) を使用してください。
<i>instance</i>	物理インターフェイス インスタンスまたは仮想インターフェイス インスタンスを次のように表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>物理インターフェイス インスタンス。名前の表記方法は <i>rack/slot/module/port</i> で、値の間のスラッシュは表記の一部として必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>rack</i> : ラックのシャーシ番号。</li> <li><i>slot</i> : モジュラ サービス カードまたはライン カードの物理スロット番号。</li> <li><i>module</i> : モジュール番号。physical layer interface module (PLIM; 物理レイヤ インターフェイス モジュール) は常に 0 です。</li> <li><i>port</i> : インターフェイスの物理ポート番号。</li> </ul> </li> <li>仮想インターフェイス インスタンス。数字の範囲はインターフェイス タイプによって異なります。</li> </ul>
<b>vrf</b>	(任意) フィルタリングする VPN ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを指定します。

ルータの構文の詳細については、オンライン ヘルプの機能である疑問符 (?) を使用してください。

<i>vrf-name</i>	フィルタリングする VRF インスタンスの名前。
<b>all</b>	すべての VRF インスタンスを選択します。

**デフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンド モード** EXEC

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドは Cisco ASR 9000 シリーズ ルータに追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドを使用するには、Cisco ASR 9000 シリーズ ルータのシステム管理者が、対応するコマンド タスク ID を含むタスク グループに関連付けられたユーザ グループにユーザを割り当てる必要があります。ユーザ グループおよびタスク ID の管理情報の詳細については、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Routers System Security Configuration Guide*』の「*Configuring AAA Services on Cisco ASR 9000 Series Routers*」モジュールを参照してください。タスク グループの割り当てについてサポートが必要な場合は、システム管理者に連絡してください。

デバッグ出力には CPU プロセス内で高いプライオリティが割り当てられるので、システムのパフォーマンスに影響が出る場合があります。デバッグ コマンド使用中のシステムへの影響の詳細については、『*Using Debug Commands on Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router*』を参照してください。



**注意**

**debug rip** コマンドを使用すると、大量の出力が生成されます。IP ネットワーク上のトラフィックが少なく、システム上の他のアクティビティに悪影響がない場合にだけ、このコマンドを使用してください。

タスク ID	タスク ID	動作
	rip	読み取り

**例** 次に、RIP に関するデバッグ情報をイネーブルにする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# debug rip database
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>undebug</b>	デバッグ モードを開始して、複数のアクティブな <b>debug</b> コマンドのセッションをディセーブルまたはリセットします。

■ debug rip